

【第50号記念特集】

〔身体と魂の飢餓〕論を育んでくれた『食品経済研究』

樋口 貞三*

私は平成10年4月（1998.4）から日大農学部農業経済学科教授として赴任し、学科名が変わったあと同食品経済学科で平成16年3月（2004.3）定年退職、となっておりますが、赴任する前の数年を非常勤講師、そして退任後もいろいろとお世話になり、結局足かけ約10年ほどのお付き合いをいただくことになりました。その間、『食品経済研究』は私にとって格好の目標のひとつであり、コンパニオンでもありました。そしてそれは掛値なく私の研究生生活、さらにいえば私の生活理念という大柱に関わるもの、といっても決して言いすぎるとは言えないものです。

ところで私が大学での教員生活を始めたのは31歳、1965年でした。迎え入れてくれた大学農学部はある意味鷹揚で大人の世界でしたが、なまけものの私にとって格好の“研究者揺籃期”でした。私が任地に向かうところある師が、「樋口君、気張って論文書かねば、などと思わないで、3年に1本あれば十分だよ。学会誌ねらいもいいが文系人にはなかなか大儀になるので、小刻みに連綿として大学・学部の紀要に投稿する意義は大きい」、といていただいたがその後の私にとってとても有益な言葉でした。実際私は、四つほどの大学で研究と教育に従事しましたが、ほぼ“教え”通りに過ごしてきたといえると思います。

さて、『食品経済研究』と私の具体的接触は四本の論文掲載の機会を得られたことですが、なお、関連して以上の論文制作のきっかけとなった拙著一つとその書評についても触れなければならないと思います。時系列的に述べてみますので番号を振っておきます（『食品経済研究』以外の番号を（ ）に入れる）。

- (i). 1998.9 (H10)『身体の飢餓と魂の飢餓』、筑波書房
- ii. 1999.3 (H11)『現代飢餓論の序説的展開』、第27号
- (iii). 1999.3 (H11) 荏開津典正：書評『身体の飢餓と魂の飢餓』、第27号
- iv. 2000.3 (H12)『現代的飢饉・飢餓成因の類型化に関わる中国ケースの意義』、第28号
- v. 2014.3 (H26)『異常態フードシステム：その構造・成立過程・意義』、第42号
- vi. 2021.3 (R3)『食問題にかかわる人々のための魂論：主に〔身体の飢餓と魂の飢餓〕

* 食品経済学科 元教授（ひぐち ていぞう）

命題を巡って』、第49号

率直に申して『食品経済研究』との交流はすべてこの「i」を始原（資源？）として始まったといって過言ではありません。[身体の飢餓と魂の飢餓]というテーマ設定に到達するまでの私の人生、かならずしも研究人生とは限りません、それから到来し共生すべき生きた指標となったものです。食問題の深奥に踏み込む場合、“身体の飢餓”については言うまでもありませんが、詳細は割愛しますが、“魂の飢餓”を思い、考え抜くことの意義と相まって、すべての食問題に本質的に底流する、と考えるのが私の立場です。意見もあるでしょうが、無下に抵抗せずに、寛容と未来性の精神にも欠けることのない編集方針で対応していただいたことにここから感謝いたします。

その他の拙稿の説明は省略いたしますが、vi.『食問題にかかわる人々のための魂論：主に[身体の飢餓と魂の飢餓]までたどりつけたのは本当に“大本望”成就という思いです。

平成10年（1998年）『身体の飢餓と魂の飢餓』の出版から20数年が経過しようとしており、なお書き留めたい事項が途絶えることなく脳裏に浮かぶのですが、“魂の論理＝魂とは？”という大きな課題への野心的なある挑戦について最後に述べておかなければなりません。この仕事をもってわたしの一連の[身体の飢餓と魂の飢餓]の取り組みが終了することになります。

(vii). Evangelos Christou *The Logos of the Soul*, Spring Publications, INC, 1976

著者はギリシャに生まれ、あのJ. Hillmanをしてその序文に“ソクラテスの真の後継者”とまで言わせしめた、専門領域としては心理学ですが、それに束縛されない独特なsoul論作りに傾注し、33歳にして夭折した天才です。彼のLogos of the Soulは高踏的でなく、Psychological experience（心理学的経験）をキーワードとして緻密な論理構築で表現されています。同書によってsoul（魂）の理性的な把握ができたと思うのですが、問題は私の信条とするカトリシズムのsoulとのギャップが残ることです。しかし、Christouの“soulは人生のパラドックスを経験する能力を与える”という言葉に共感します。私はこの著作の翻訳を7年かけて終え、現在解題の微調整作業中であることを申し上げて終わりとします。[終わり]